



大井川鐵道沿線 名所図繪

大井川鐵道沿線図繪

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

大井川鐵道本線は、昭和二年六月十日の金谷―横岡間鐵道新規開業に始まる。その後の昭和五年家山―塩郷間、翌六年十二月一日には青部―千頭間まで延伸し、全通している。

吉田初三郎は、その全線開業に照準を合わせ、昭和六年秋の十一月には沿線図繪を完成し、十二月初旬には印刷刊行（刊年月日不記）したようだ。

東海道の宿駅・金谷を起点に、南アルプスを源流とする大井川溪谷の本流に沿って遡ること、千頭までの約四〇km、「深山幽谷の景趣に富む」別天地を、富士山を背景に入れて表現している。

黒煙を吐く蒸気機関車（電化は昭和二十四年）と車輛、川根茶の本場の茶畑、大正末期から始まった電源開発の発電所群、溪谷沿いの河岸段丘上に立地した集落や駅、御料林の山々を眺めながら、旅をしているよ

藤本一美

首都大学東京（都立大学）非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『大井川鐵道沿線名所図絵 [同題、大井川鐵道沿線図絵]』

(昭和6(1931)年12月初旬)

大井川鐵道株式会社発行

日本ライン蘇江の觀光社 印刷

創立：大正14(1925)年3月
本社：静岡県島田市金谷東2丁目1112番地の2

大井川鐵道株式会社
Oigawa Railway Co., Ltd

大井川鐵道株式会社
路線図

井川
奥大井湖上
長島ダム
アト
※アプト区間
(アトいちしろ～長島ダム)
千頭
田野口
塩郷
川根温泉笹間渡
家山
新金谷
金谷
東海道線

日本唯一の“アプト式区間”と
数々の秘境駅

金谷～千頭間の「本線」と千頭～井川間の「井川線(南アルプスあぶとライン)」の二つの路線を有する。昭和51年に日本で初めて蒸気機関車の動態保存を始めた鐵道として名高く、現在もほぼ毎日運転されている。S1列車の運行に旧型客車を使用していることや沿線の風景から、テレビや映画の撮影に使われることも多い。井川線は日本唯一のアプト式鐵道で、平成2年10月より運行開始。秘境駅にも掲載されている尾盛駅、高さ70.8mの関の沢橋梁など、見どころ満載とあって多くの観光客が訪れている。



うな錯覚をおぼえてしまうほどだ。
千頭から井川(今の大井川鐵道井川線の前身)などの奥地へは、昭和十年に完成の森林軌道計画線・一部開通線が、ダム建設資材輸送を兼ねて描出している。

なお、千頭駅そばの丘に建つ「清涼画荘」が気になる。作品裏の解説によると、初三郎がこの地に初めて来て、風光の佳いのに魅せられ、ここを手に入れ建設した画室兼用の別荘だという。しかし、この作品を発表した翌昭和七年には、八戸市種差海岸の風光にも魅せられ、潮観荘を建てている。犬山市の日本ライン蘇江画室から昭和十一年に完全撤退し、潮観荘に本拠地のひとつを移してしまったため、あまり清涼画荘からの作品は誕生しなかったのは残念なことだった。

また、春のピンクの桜と秋の紅葉が混在するあざやかな色彩表現を欠いたり、山並みの筆致に、初三郎らしさを感じないのは、なぜだろうか。初三郎自身の多忙さから、弟子たちに描画の一部を任せただが遠因かもしれない。

ついでだが、本図を複製した記念普通乗車券(新金谷・千頭各駅)が、昭和五十年三月十日消印で発売されていることを付言したい。